

# 東北における官民連携の推進について

---

東北地方整備局 建政部

国土交通省では、内閣府(地方創生推進事務局)と連携し、都市のコンパクト化と地域の稼ぐ力の向上に、ハード・ソフト両面から総合的に取り組む地方再生のモデル都市(地方再生コンパクトシティ)として、32都市を選定  
 今後、国土交通省と内閣府(地方創生推進事務局)は、国やUR都市機構の職員によるハンズオン支援を含め、各種支援メニューにより、モデル都市の取組を集中的に支援し、目に見える形での都市の再生を目指す

## モデル都市の選定

- 全国から地方再生の取組を募集(全国77都市から応募)
  - ・空店舗対策、城下町の再生等にハード、ソフト両面から総合的な取組
  - ・官民連携のもと、民の力を最大限引き出し、地域の「稼ぐ力」を再生する取組
- 有識者委員会において、①事業内容、②事業効果、③連携体制、④持続可能性、の観点から、提案内容を審査し選考

## 支援メニュー

- モデル都市に対して、以下の支援メニューにより、平成30年度から3年間集中支援
  - ハード:社会資本整備総合交付金(都市再構築事業、都市公園・緑地等事業等)
  - ソフト:地方創生推進交付金(内閣府)、民間まちづくり活動促進・普及啓発事業 等
- さらに、国やUR都市機構の職員がモデル都市に対して、ハンズオン支援し、全国のモデル事例となるよう、目に見える形で都市の再生を実現し、全国に横展開

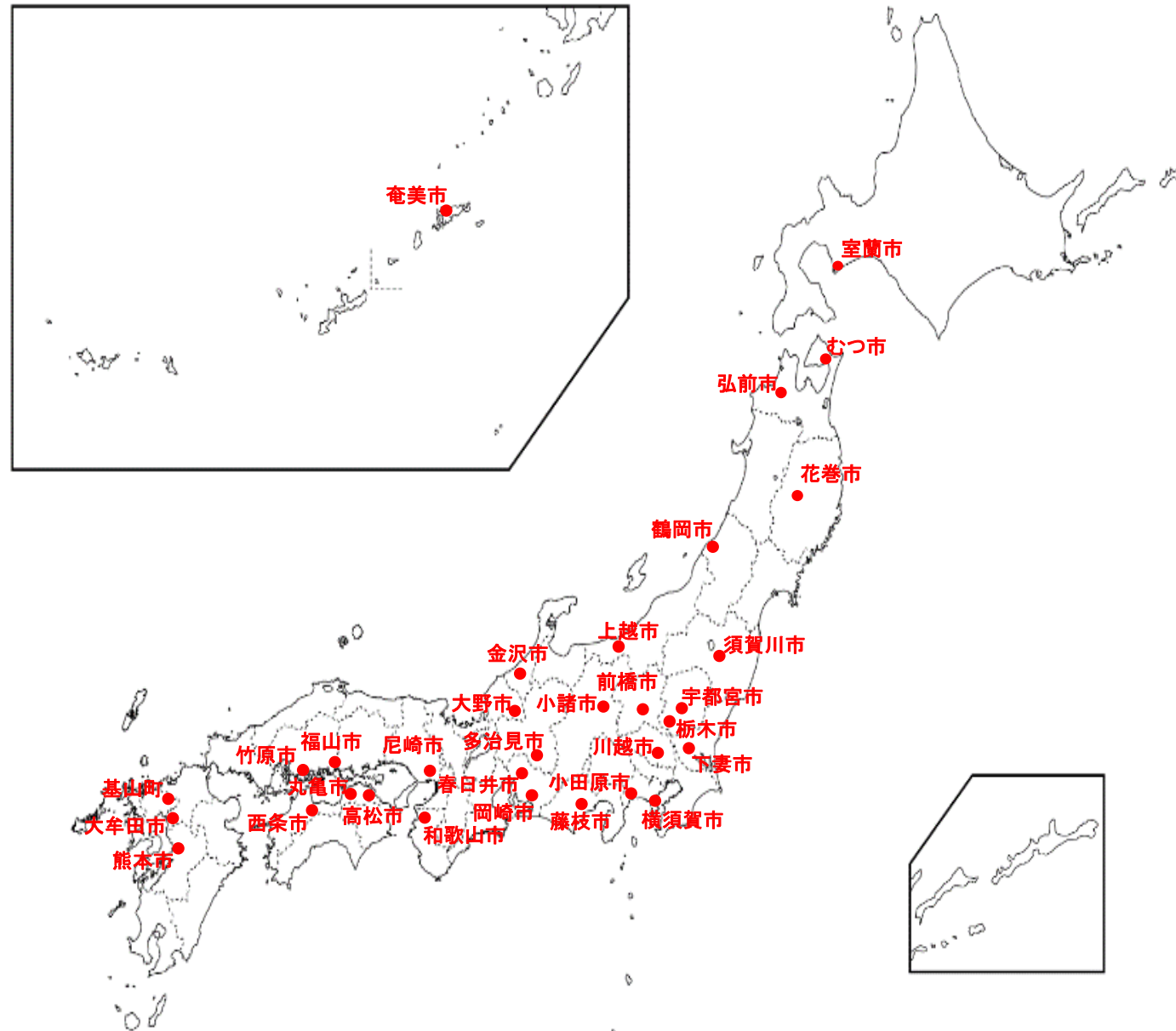
## 東北のモデル都市

弘前市、むつ市、花巻市、鶴岡市、須賀川市



# 地方再生コンパクトシティのモデル都市(32都市)

ブロック	都道府県	市町	人口
北海道・東北	北海道	室蘭市	88,585
	青森県	弘前市	177,549
		むつ市	58,506
	岩手県	花巻市	97,771
	山形県	鶴岡市	129,630
関東	福島県	須賀川市	77,458
	茨城県	下妻市	43,334
	栃木県	宇都宮市	518,761
		栃木市	159,267
	群馬県	前橋市	336,199
	埼玉県	川越市	350,327
	神奈川県	横須賀市	406,686
		小田原市	194,174
	長野県	小諸市	42,536
	北陸	新潟県	上越市
石川県		金沢市	465,810
中部	岐阜県	多治見市	110,465
	静岡県	藤枝市	143,658
		岡崎市	381,031
	愛知県	春日井市	306,599
近畿	福井県	大野市	33,128
	兵庫県	尼崎市	452,571
	和歌山県	和歌山市	364,285
中国	広島県	竹原市	26,440
		福山市	465,004
四国	香川県	高松市	420,943
		丸亀市	110,063
	愛媛県	西条市	108,244
九州	福岡県	大牟田市	117,413
	佐賀県	基山町	17,494
	熊本県	熊本市	741,115
	鹿児島県	奄美市	43,184





## 位置・概要

### 弘前市概要



弘前市  
 市域面積：524km<sup>2</sup>  
 人口：173,821人

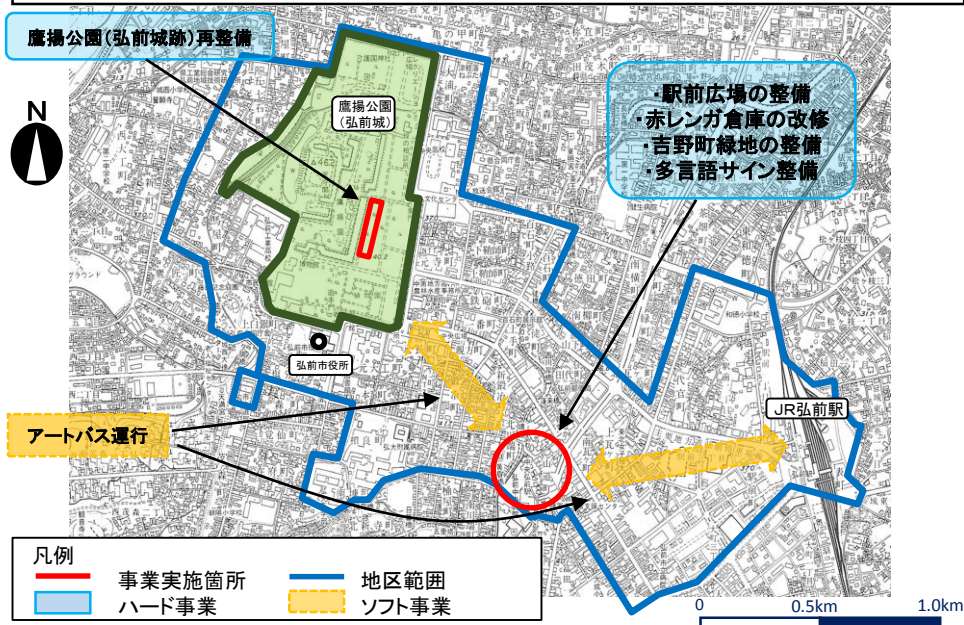
(平成30年2月末現在)

### 【概要】

民間活力を活かし明治期の赤レンガ倉庫を芸術文化施設としてリニューアル、さらに赤レンガ倉庫、桜の花筏で有名な弘前城、弘前駅を拠点に外国人旅行客を含めた来訪者の回遊性を高め、人を呼び込み、人の流れの創出を目指す。

【官民連携対象】スターツコーポレーション(株)等

### 鷹揚公園(弘前城跡)再整備



## 実施内容

### 主なハード事業



赤レンガ倉庫を核とした回遊拠点の形成  
 赤レンガ倉庫の改修(芸術文化施設)  
 駅前広場の整備(交通結節点の強化)  
 吉野町緑地の整備

明治・大正期の産業遺産

※芸術文化施設及び周辺環境整備のデザインはH26年度時点のイメージ

弘前芸術創造(株)による整備・運営・活用(PFI事業)

(芸術文化施設及び吉野町緑地整備部分)



鷹揚公園(弘前城整備)再整備  
 (馬場、土塁等の歴史的遺構の復元)



赤レンガ倉庫  
 に併設した  
 シードルカフェ  
 等の整備・運営  
 (日本におけるシードル発祥地)

### 主なソフト事業



アートバス運行

【5年後までに】エリアの魅力向上により、30年間下がり続けている地価を増加基調に



### 歩行者・自転車通行量

近年横ばいの通行量を3年後には増加基調に  
 中心市街地の歩行者・自転車通行量の増加率  
 (H28 約18,700人/日(平・休平均7地点合計))  
 (従前値) -2% (H28/H23)  
 → (目標値) +24% (H32/H28)

### 地価

昭和61年をピークに  
 下がり続けている地価を増加基調  
 最寄り地点の基準地価の変動率の向上  
 (従前値) -1.6% (H25~H29)  
 → (目標値) ±0% (H32/H28)

### 居住人口

減り続けるまちなか人口を  
 3年後には増加基調に  
 中心市街地の居住人口の増加率 (H28 約9900人)  
 (従前値) 0% (H28/H23)  
 → (目標値) +4% (H32/H28)

### 中心市街地観光施設等 利用者数

増え続ける利用者数を3年後には更なる増加基調に  
 中心市街地観光施設等の利用者数の増加率  
 (従前値) +4% (H28/H22)  
 → (目標値) +21% (H32/H28)

- 中心商店街に隣接するエリアで明治・大正期の建物である煉瓦倉庫をリノベーション、美術館を核とした文化交流施設を整備
- 文化交流施設及び緑地の整備は、PFI方式により民間事業者のノウハウ等を活用し効率的な整備、管理・運営を図り、15年間という長期間の指定管理による持続性のあるまちづくりを実現し、周辺と連携して中心市街地の賑わいを創出

各事業における所有権、主体の概要

事業  
(赤字: 社会資本整備交付金活用事業)

